

# もんし 聞思

発行所 光山寺  
〒758-0063 宇治市大字山田4553  
TEL (0838) 22-1370  
http://kousanji.net

ちる桜  
いまも心に  
さく桜  
南三陸町遠藤未希さん  
の二親

## 慈珠山光山寺護持会が発足

昨年十一月二十五日光山寺護持会が発足し、第一回の発足役員会が開催されました。光山寺の今後の護持について、護持会会長に就任された光山寺責任総代の堀誠一さんよりご報告いただきました

「一昨年(平成二十三年)より、光山寺の護持について、今後五十年後を見据えた時に、寺院護持運営が厳しくなることが想定され、また、建物の維持管理についてもご門徒への経済的負担軽減を図る上から、年会費等の徴収問題を含めた検討会議を門徒総代会(堀誠一総代会会長)をはじめ仏教壮年会(西島孝一会長)・仏教婦人会(河村一江会長)の三教化団体役員と門徒推進員を交えて進めてまいりました。

その結果、当面は年会費などの徴収は行わず『聴聞の充実を中心とした教化活動に重点をおいた取り組みに専念』することとし、十一月二十五日に「慈珠山光山寺護持会(会長 堀誠一総代会会長)」が正式に発足致しました。

寺院は「門徒全員のものです。護持会発足にあたり、発足役員会においてご門徒の方々がお寺にお参りし易くなるように、光山寺護持・教化活動を充実して行くことを申し合わせしました。

既に、報恩講法要にて発足についてご報告いたしました。広くご門徒の皆様にご周知いただきますようお願い申し上げます。合掌」  
以下、会則一部抜粋。

### ○会則の概要

・目的は「光山寺門信徒の教化育成を主とし、ご本尊並びに建物、境内地、墓地等を維持管理し、光山寺の護持発展に努める」としています。

・会員は「光山寺の全門徒及び信徒で組織する」とし、その他「役員」「事業及び事業計画」「会計」並びに「会計年度」などを決定。

### ○護持会役員構成など

お寺より住職、若院、坊守、若坊守の四名、総代会より会長以下七名、仏教壮年会より会長以下六名、仏教婦人会より会長以下五

名、門徒推進員より二名の総計二十四名。二十四名の中から護持会会長、副会長三名、幹事二名、会計二名、監査二名、事務局三名を運営役員とし住職を相談員としております。

### ■東日本大震災の被災地ボランティアに参加して

山口教区のビハラー山口が企画する東日本大震災の被災地ボランティアに参加された門徒推進員の岸八重子さんよりご報告を頂戴しました。

「私は一昨年の東日本大震災の四ヶ月後に、ビハラー活動の仲間と被災地ボランティアに参りました。(仙台別院内東北教区ボランティアセンター)今回二度目となりました。

前回の訪問では、仮説ハウスの茶話会の手伝いでした。被災当時の生々しい体験や、建設直後の仮説ハウスの不便さ、今までの生活基盤が「無」になった悔しや、無念さ、今後の不安などを傾聴させていただきました。

今回は、写真洗浄などの「おもいでかえる」作業所の手伝いで、砂にでかえる//作業所の手伝いで、砂に塩泥に汚れた名刺を一枚一枚バタナイフでそぎ落とし、濡布で拭き乾かして整理をしました。

そこには当初、役に立つ、立たないの価値観で収集品を見ていた自分がいました。仙台だけで、九百人もの犠牲者がでたことを思う時、遺品は失われた大切な思い出の品の一つかも知れないと気がきました。

地元や他県の人と一緒に、手伝いさせていたとき、長時間を要する復興に向けて頑張っておられる被災者の皆さんに寄り添う気持ちを決して忘れてはいけいと思えました。この度のご縁をいただいた事、ご一緒のお仲間、御同朋と喜び、感謝と御礼申し上げます。」



## 光山寺行事案内

平成二十五年の光山寺前期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

### ★萩組・光山寺法要関連

- 一月 八日(火曜) 午前十一時半 最勝講(玉江地区)
- 一月二三日(水曜) 午後七時 萩組連続研修(光楽寺)
- 二月 三日(日曜) 午後七時半 門徒推進員連絡協議会(同上)
- 三月二六日(土曜) 午後七時 萩組連続研修(明光寺)
- 五月一・二日(日・月曜) 春季永代経法要(講師、中島昭念師)
- 七月一八日(木曜) 〓三二日(水曜) 本山安居に若院出講

### ★子供会(日曜学校) 関連

- 一月二四日(月曜) 午前十一時 子供報恩講
- 以降、二月一六日(土曜)・三月一六日(土曜)
- 四月二〇日(土曜)・五月一八日(土曜) 午前九時より開催

### ★仏教青年会 関連

- 一月二四日(月曜) 午前十一時 子供報恩講と同時開催

### ★仏教壮年会 関連

- 五月 下旬 午後七時半 光山寺仏教壮年会総会
- 六月 未定(日曜) 午後三時 光山寺ソフトボール大会

### ★仏教婦人会 関連

- 二月下旬・四月中旬 光山寺仏教婦人会常任委員会・全役員会
- 五月一九日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式

### ★親鸞聖人讃仰会(登録制・要年会費二千元)

- 四月二二日(月曜) 午後八時、六月一七日(月曜) 以降、隔月原則第三月曜日午後八時庫裡にて開催。十月まで。

### ★礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会、一般参加可・無料)

- 五月一日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 六月 八日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 七月 六日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 以後、毎月第二土曜午後八時開催。十月まで六回開催。

### ★雅楽練習会

- 一月二八日(日)・三月十七日(日) 原則日曜午後七時半。不定期開催。

※コーラスの日程についてはお問い合わせください。

山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半)

萩こころの電話(三分間法話) 電話25-7710

西本願寺の時間(KRラジオ) 毎週日曜日午前六時から六時十分





# ■仏教壮年会研修・忘年会■

光山寺仏教壮年会（会長、西島孝一）では文化部（野村謙次部長）の研修並びに忘年会を十二月二十二日（土）午後六時より光山寺本堂にて開催しました。今年度は講師に萩博物館学芸員、道迫真吾氏をお迎えして、「没後百年記念、楫取素彦と吉田松陰」と題して講演いただいた。楫取は吉田松陰の義弟で、松陰没後は後継者として松下村塾の指導にあたった。素彦は、幕末の動乱期には、十三代萩藩主毛利敬親の側近に登用され、藩内では木戸孝允や宍戸たまき、藩外では坂本龍馬・西郷隆盛らと協力し、倒幕に活躍した。明治維新後は、群馬県の初代県令として産業や教育の振興に顕著な功績を残し、名県令と称えられた。今回は特に奥様の寿子さん（松陰先生妹）が前橋で清光寺という浄土真宗寺院を建立された話なども聞く事ができ、松陰先生のご家族が熱心な念仏者であることを再確認できた。



# ■募金箱報告■

WWF J（世界自然保護基金日本委員会）の募金箱（焼香机よこ）に集まった募金八、九六一円を十二月二十七日送金いたしました。沢山の募金大変に有り難うございました。WWF Jは、東日本大震災前より日本のエネルギーの未変えるために、環境保全の視点を政策に、現実的・具体的な道を描く、政府案に対する代替案を出す、温室ガスの削減目標を定める、既成概念を変えていく、エネルギーへの関心を高めるなどの活動を積極的にやっている。

# ■初参式のお知らせ■

親鸞聖人の誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月十九日（日曜日）午前九時半より光山寺にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となるが、仏の子として育つため仏教の縁に初めてあう合同の初参式です。参加希望の方はお子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。尚、当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けていますので、是非お申し出ください。



# ■親鸞聖人鑽仰会会員募集！■

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を今年も四月二十二日よりスタートします。新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千元で二ヶ月に一回の開催。西本願寺の「季刊せいてん」を中心に学習します。浄土真宗聖典註釈版が必要となりますが、お持ちでない方は申し出ください。偶数月第三月曜日午後八時開催となりますのでご注意ください。詳しい申込みについては別紙にてご確認ください。

# ■法話「さびしい命を嘆く」■

宮内憲昌

（益田市教西寺住職）

本願寺新報（昭和六十年一月一日号）掲載

# ◆お年寄りのなげき

「わたし、も若い人と一緒の家には、生きられないのかねえ、いまだ映中のテレビドラマ「大家族」の中で、こんなさびしくも悲しいおばあさんのせりふが出て来ました。これは、今日の家庭におけるお年寄りの嘆きです。一方、私の町にも、身寄りがなく、あるいは家族と離れて老人ホームに暮らすお年寄りが、年々増えています。時々、社会教育福祉のお手伝いをさせていただいておりますが、いつも感ずることは、お年寄り達あきらめと寂しさが漂っていることです。

ある調査の集計によると、ホームのお年寄りは、長寿を望んでいないようです。「長生きしたい」人（26%）より「たなひ」人（63%）が多く、また「生に執着する」人（8%）より「しない」人（45%）が多いという結果が出ています。確かに「お年寄り」として「もう死んでも良いですよ」子供はもう帰って来ないし、死ぬならホームで……とか「思い残すことはないよ」など、一見、瀟灑したように見える死生観をします。しかし、この言葉の向うに、やり切れないさびしさ、あきらめが顔をのぞかせているようです。長い患いをしたら護世話をしてくれるだろうか、いや誰も世話してくれないかもしれないという心情、不安の本意はないかと痛感するのであります。

自説したある老人の遺書に「この世には、うらぎりの愛しかないのか。きょうまで、私のことをわかってくれた人はひとりもなかった」とありましたが、現実には、この老人一人の嘆きではないようです。あなたにとって一番大事なのは、第一に宗教、第二に家族があげられていることでしょうか。

# ◆まさに人生苦なり

高齢化が進むほど、誰もが通らなくてはならない老病死の不安が強く迫ってきているようです。人生問題における苦、つまり人間として生きることから生ずる経験苦もありましょうし、生死の問題の苦、すなわち生きることで苦であるという本質苦もあるでしょう。まさに「人生苦なり」であります。この苦をどう越えるか、あるいは苦の壁に撞きつむくべきか、二つの道が問われるようになります。

私達の正依の経典「天無量壽經」の真実のことが、聞かされてまいります。「愛するものは別れ、栄えるものはやがてほろびる。真に楽しむべきものは、なにひとつもない……」。人はこの世の愛欲のきずなにつながられて生きていくが、独生まれ、独り死に、独り来て、独り去るのである。すなわち人それぞれの行いによって苦楽の境界にすむ身になるのであって、すべては自分自身がその責任を負わねばならない。誰もこれに代わることはできないのである。」ということでもあります。

# ◆寿名位貨に執着し

まことに、人間のいつわさき姿であります。人は何を幸せと思ひ、何を求め続けているのでしょうか。東洋の幸福論を歴史の上からながめてみますと、次のことが現われてきます。長生きをし孫が繁栄すること、名誉や地位に恵まれること、財産が豊かになること、つまり「寿名位貨」ということになりました。人間の歴史は、この寿名位貨に執着し、これが実現することを願ひ、追ひ続けてきたことを示しております。そして、一時的には、はなやかな人生と有頂天になったときもありました。

人生楽しもあり、生き甲斐を感じたこともあったでしょう。しかし、数十年と執着していたものは、限りある世界であったと明らかになると、また、はつきりすることが信心であります。南無であり、帰命であります。

本願力にあひぬれば、むなくすくむひとなき  
功徳の宝海みちちて、煩惱の濁水たごなし  
と「高僧和讃」にあります。限りある私が、無限（アマタ）の世界へ眼ひられるのです。無限の智慧（ちえ）無限の慈悲にめざめさせていたく世界が「ナモアマタツ」であります。無量の智慧にめざめて、わが身の無智をしり、無量の慈悲にめざめて、自中心の生き方、我執の強さに気づくのです。

# ◆人生の確かな智慧

体力を失ったから、つれあい失ったから、仕事を取り上げられたからと、老人の三失に悲しみ、長生きしたくない、死にたいと、さびしいのちをなげく人びとが多いようです。しかし、このような私たちが、恵まれ生かされたいのちの尊さ、また、念仏の声を、子や孫に教へてやることこそ生きがいである、と喜ばせていたく世界に転せられるのです。

私の寺では、仏教壮年会の方々と、元気なお年寄りに「孫をつれて、ご本山へ参拝しよう」と呼びかけ、表現するよう計画しているところです。おじいちゃんやおばあちゃんのそばで、声たからかに控指傷（け）を唱和するお孫さんの姿想像するだけでも、すばらしいではありませんか。

高齢化社会が進むほどに、地域社会においても、老人学級や老人大学など、講座や集会が多く開催されています。健康管理のこと、年金のこと、老人食のこと、史蹟旅行のこと、ゲートボールのことなどが、主な内容になっています。これらは、お年寄りには、それぞれに有意義なものには違いありません。けれども「人生における確かな智慧を身えて下さい」とさげられた「老人の声は「いまあなたにとって、いちばん良いものは……」の問いに対する回答であり、それは後生（ごしやう）の一大事であると教えられるのであります。